

イノシシはこういう生き物です

高い学習能力

目の前で仲間のイノシシがわなにかかると、警戒心が高まりわなにかかりにくくなります。

高い嗅覚

犬の10倍以上であるといわれています。



怪力

鼻先を使って70kgの石を持ち上げることができます。あごの力も強く、相当な太さの真竹もかみ割ります。

何でも食べる

1日当たり、米ぬかでは1kg、野菜や果実では2~3kgを食べます。

参考：熊本県鳥獣被害対策の手引き

1日中活動

夜行性であると思われがちですが、思った以上に臆病であり人を嫌うため、夜活動しているだけです。日中の大半を「エサ探し」と「食べること」に費やします。

がんじょうな体毛

硬くて太く、電気を通さないほどがんじょうです。

年に1回4~5頭を産む

春から初夏にかけて出産。春に生まれた子イノシシがすべて死んでしまった（捕獲された）場合は、再度妊娠することがあります。



イノシシに遭遇！そのための

ケガをしたイノシシは攻撃的

ケガをしたイノシシは興奮状態で、攻撃的です。パニックになって突進してきます。

ウリボウ（子イノシシ）連れの母イノシシは危険

ウリボウと母イノシシの間に入るのは危険です。ウリボウを見つけても、近くに母イノシシがいるので、決して近づいてはいけません。

イノシシに出会ったときは刺激しないこと

イノシシに出会ったときは、傘や上着などで自分を大きく見せながらゆっくりと離れるなど、イノシシを刺激しないようにしましょう。

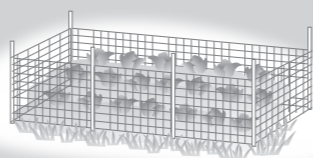


井上専門員による「イノシシ被害対策講演会」を開催

イノシシ防護の心構えや方法などについて、具体的に解説されます。ぜひ、ご参加ください。

- とき=10月28日(日)午前10時から
- ところ=天草地域振興局2階・大会議室
- 申込方法=電話で本庁(別館)・農林整備課へ申し込んでください。

【問い合わせ先】本庁(別館)・農林整備課 ☎1111



農作物被害を防ぐために

イノシシによる農作物被害を防ぐためには、どうすれば良いのでしょうか。そこで、イノシシ被害対策に詳しい、(独)農業・食品産業技術総合研究機構 近畿中国四国農業研究センターの井上雅央専門員に、話をお聞きしました。



井上雅央 専門員

プロフィール
イノシシ被害対策について、全国各地で講演や研修、現地指導を実施。平成21年度まで同センターの鳥獣害研究チーム長を務めた後、現職。

「イノシシとはどういう生き物ですか」

まず、人間でも泳ぎが得意な人もいれば、長距離を走ることが得意な人がいます。1日に5食をたべる大食漢もいれば、食が細い人もいます。用心深い人もいれば、大胆な人もいます。

というように、イノシシも「十人(猪)十色」です。「イノシシはこういう動物だ」という思い込みは人間の勝手な思い込みです。イノシシにはイノシシの、シカにはシカの都合があります。そのことを忘

れてはいけません。

今から話すことは、イノシシのことについて一般的な話として聞いてください。「ウソでしょ?」という意見もあります。皆さんが見たイノシシは、これから話すイノシシと違うかもしれません。それだけイノシシにも人間と同じように、個性があるのです。

「イノシシによる農作物被害を防ぐために、私たちがまず理解しておかなければならない点は何でしょうか」

人間本位の考えは動物には通用しません。イノシシ被害の原因は「餌付け」と「人慣れ」です。イノシシは集落で安心してお腹いっぱい食べることもできるから、集落に近づきます。身の回りに未収穫の果樹や規格外の作物を放置していませんか。水稲の収穫後に柵を開けて、ひこばえ(稲の2番穂)やレンゲなどを自由に食べさせていませんか。その近くにうっそうと茂った雑木林や放棄竹林などのひそ

み場所はないですか。イノシシ被害とは、イノシシの「餌付け」に成功しただけのことです。対策とは、この「餌付け」をやめるだけのことです。

また、「イノシシは夜行性だから電気柵は夜だけ電気を流せばいい」という人がいますが、こういう地域では昼間活動しているイノシシが電気柵に慣れてしまい、夜に通電させてもまったく効かなくなり、最後にはその集落すべてが電気柵が効かなくなり、す。電気柵は24時間の通電が、鉄則です。

「農作物被害を防ぐために私たちが取り組まなければならないことは何でしょうか」

被害の原因をみんなで勉強することが大切です。9割の人が「餌付け」を止めていても、1割の人が「餌付け」を続けていると、イノシシは集落に近づいてきます。決して「蚊帳の外」を作らないで、集落の問題として、みんなで取り組むことがいちばんの対

策です。

自分がやっている対策は、「餌付け」をやめるという目的になっているかどうかを考える習慣を身につけてください。柵をしても、いちばん「餌付け」が進む冬に水田でひこばえやレンゲを食べさせてしまえば、柵は単なるエサ探しの目標になります。稲刈りの後こそ、しっかりと柵を点検し、イノシシを絶対に入れないぞ、という柵だけが「餌付け」をやめる柵だということを知ってください。

地域によっては、集落を囲む大規模柵を張って、その維持・管理で疲弊してしまっている集落もあります。決して無理なことはしないことです。長続きしません。

自分たちでできることが何か考えてみてください。もう一度原点に戻って、きちんと田畑を管理する、生ごみなどを放置しないなど、できることから始めてみてください。必ず努力は実って、イノシシから農作物を守ることができるようになります。